

レカレ乍ラ、会社、官憲軍の猛烈な勢力が、議院の加入を阻止する接助に依るべく水泡に帰レド。

斯様な形勢のもとに又、調停者も現はれ、この運動から積極化して来たのが、本報より野田委員長、中村常任委員長が廿九日夜の特急列車で大阪迄出立、浜松の戦線に向った。

朝鮮新聞の露報

然るに廿九日大衆朝日夕刊に、樂果の争議解決する所の記事が掲載され、これが、此の露報で本報より争議用司令部へ問

い合せたところ、ロマタカイゲンセ又、ロ云々の返電が来た。自身常中、徐存、筋縄では四能軍團を切り出すことが不可能だと、会社も官憲とも知り覺してゐる。此の新聞記事が、何処から出たのかも大体想像がつかうわけだ。

次に来るものは

、市長、四能軍や其他の会社系統の連中が口々に、調停が失敗したと、存と逆値傳をして、これを、極会に、両度の七、概率、罷工團の切り崩しを目論んで居らぬとも限らず。一サー、數日後の五分間、た、浜松に封する、全国加盟組、名、心、接の身が、由る、むとき、一、身、存、存の、兄弟が、悪、毒、牙、に、殺、死、れるの、を、川、浜、松、から、眼、を、離、す、存、存、隊、隊、編、成、の、身、を、用、する、存、存、一、審、問、金、幕、幕、を、終、續、せ、存、存、

六月廿日正午

日本労働組合評議會 日本部